

早稲田大学 人間科学学術院 人間科学会 諸費用補助成果報告書 (Web 公開用)

申請者 (ふりがな)	呉思穎 (ゴスイン)
所属・資格 (※学生は課程・学年を記載。卒業生・修了生は卒業・修了年月も記載)	早稲田大学人間科学研究科・修士1年
発表年月 または事業開催年月	2024 年 08 月
発表学会・大会 または事業名・開催場所	第65回日本社会医学学会総会・久留米大学医学部
発表者 (※学会発表の場合のみ記載、共同発表者の氏名も記載すること)	呉思穎, 尹恵, 徐桜晗, 岩垣穂大, 周思宇, 扇原淳
発表題目 (※学会発表の場合のみ記載)	中国における緩和ケアに関する家族の意思決定に関する体系的文献レビュー
<p>発表の概要と成果 (抄録を公開している URL がある場合、「概要・成果」を記載した上で、URL を末尾に記してください。また、抄録 PDF は別途ご提出ください。なお、抄録 PDF は Web 上には公開されません。)</p> <p>本研究では、中国における緩和ケアについて、家族の意思決定に関する文献レビューを行い、その特徴を明らかにすることを目的とした。</p> <p>中国の文献情報データベースである CNKI を用いて、2017 年 2 月から 2024 年 7 月までに発表された論文を検索して、12 編の論文を最終的な分析対象とした。先行研究 (加藤ら, 2017) を参考に、対象論文について、出版年、研究対象者の背景、家族の意思決定の概要について抽出・分析を行った。</p> <p>対象論文の出版年と論文数は、2017 年から 2021 年まで各 1 編、2022 年以降増加し、2022 年と 2023 年は各 3 編、2024 年は 1 編の研究がみられ、当該分野の知見が蓄積されていた。研究対象者の背景については、患者との続柄として、子ども 327 人、配偶者 326 人、親 113 人、その他の家族 123 人が含まれていた。終末期の高齢者に代わって意思決定をしている家族は、成人した子どもが最も多く、次いで配偶者であった。終末期高齢者における家族の意思決定の概要として、決定事項については、医療選択 8 件、日常的ケア 4 件、症状のコントロール 2 件、緊急時対応 1 件であった。家族の意思決定プロセスについては、「家族が患者の病状を知ることになる段階」、「意思決定の段階」、「患者に意思決定の結果を伝える段階」の 3 段階に分けられた。家族の意思決定に影響を与える要因としては、孝道文化、緩和ケアに対する理解度、患者との関係性、患者の信仰宗教の 4 つにまとめることができた。</p> <p>中国は、伝統的な「家本位」の儒教の影響を受けているとされ、緩和ケアをはじめとした医療選択場面で家族の果たす役割は大きい。しかしながら、緩和ケアでは、患者の治療の目的が何かを正しく把握することが求められるが、家族であっても患者の意思を推定することの困難や不確かさがある。また、患者と家族の意思決定が一致しないことも少なくないことから、患者の意思と権利を尊重することを基本原則として、家庭間での意見交換の機会創出とその支援が必要と思われる。</p> <p>今後は、中国における緩和ケアに関する意識やその関連要因についての実証的な検討が求められる。</p>	

※無断転載禁止